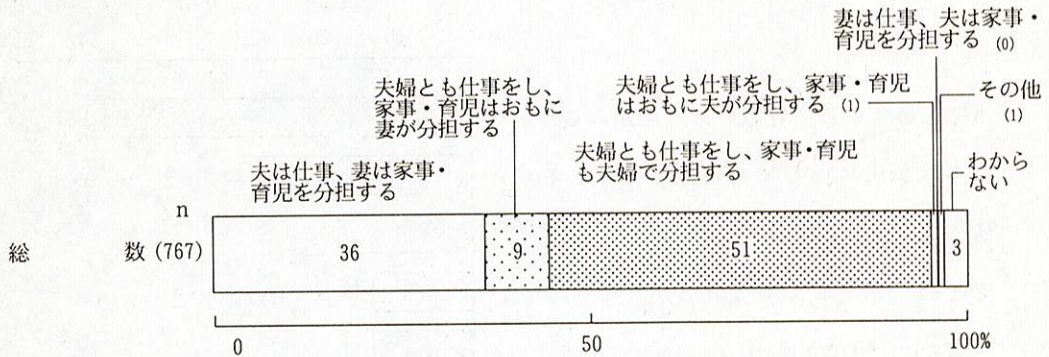


## 9. 女 性 問 題

### 9-1 夫婦の役割分担のあり方

問18 [回答票] あなたは、家庭における夫婦の役割分担については、本来どうあるべきだと思いますか。この中から1つだけ選んでください。(○は1つ)



家庭における夫婦の役割分担について、本来どうあるべきだと思うかたずねたところ、「夫は仕事、妻は家事・育児を分担する」が36%、「夫婦とも仕事をし、家事・育児はおもに妻が分担する」が9%、「夫婦とも仕事をし、家事・育児も夫婦で分担する」という人が51%となっている。「夫婦とも仕事をし、家事・育児はおもに夫が分担する」は1%、「妻は仕事、夫は家事・育児を分担する」は0%となっている。

性別にみると、「夫婦とも仕事をし、家事・育児も夫婦で分担する」という人が女性は57%であるのに対して、男性は43%と14ポイント低く、逆に「夫は仕事、妻は家事・育児を分担する」という人は男性41%に対して、女性31%と1ポイント低くなっている。

性・年齢別にみると、「夫婦とも仕事をし、家事・育児も夫婦で分担する」という人の割合は女性の30代から50代で高くなっており、30代の女性では、71%にのぼっている。男性では、20代で57%と最も高くなっている。「夫は仕事、妻は家事・育児を分担する」という人の割合は男女とも60歳以上で高くなっており、女性で51%、男性で63%となっている。

ライフステージ別にみると、「夫婦とも仕事をし、家事・育児も夫婦で分担する」という人の割合は、独身期 (61%) と家族成長前期 (61%) で6割と、他の層に比べやや高くなっている。

図 9 - 1 夫婦の役割分担のあり方（性・年齢別）

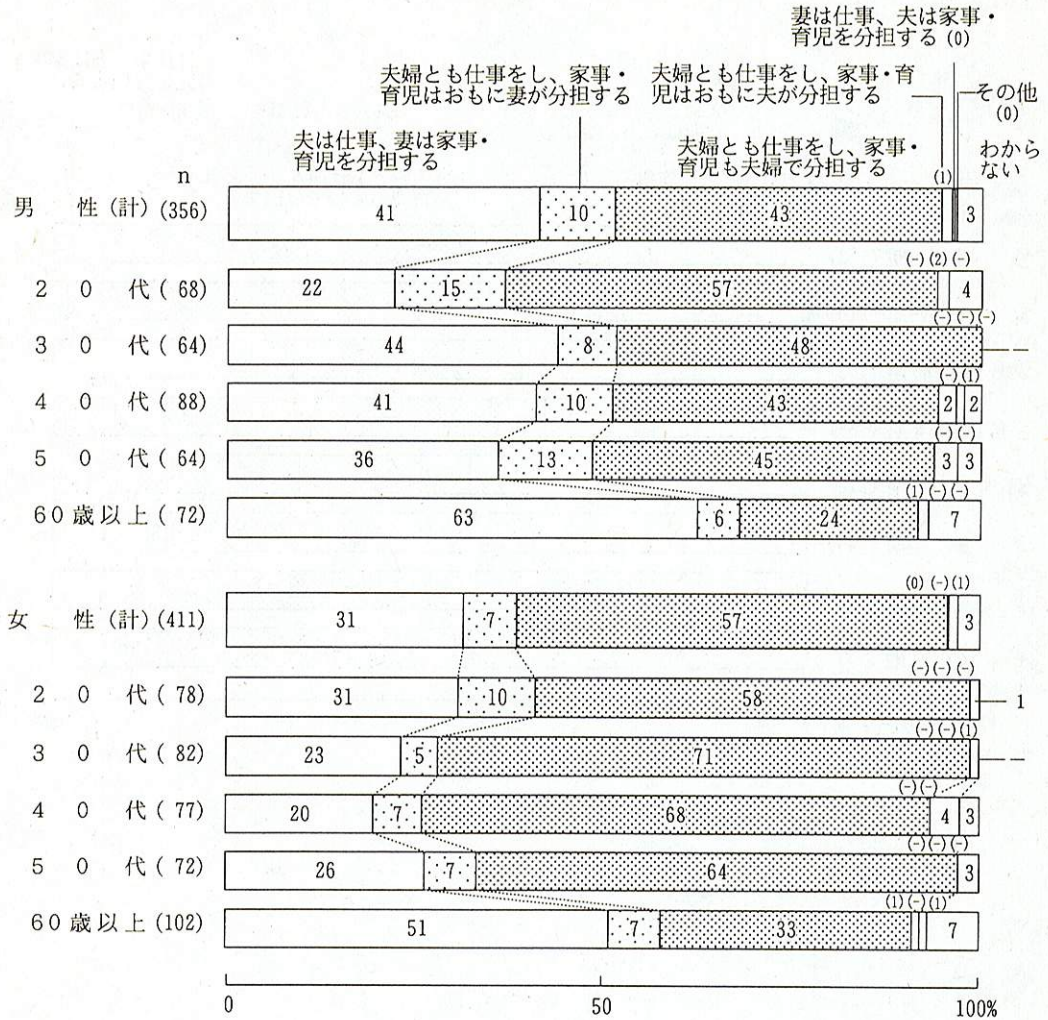
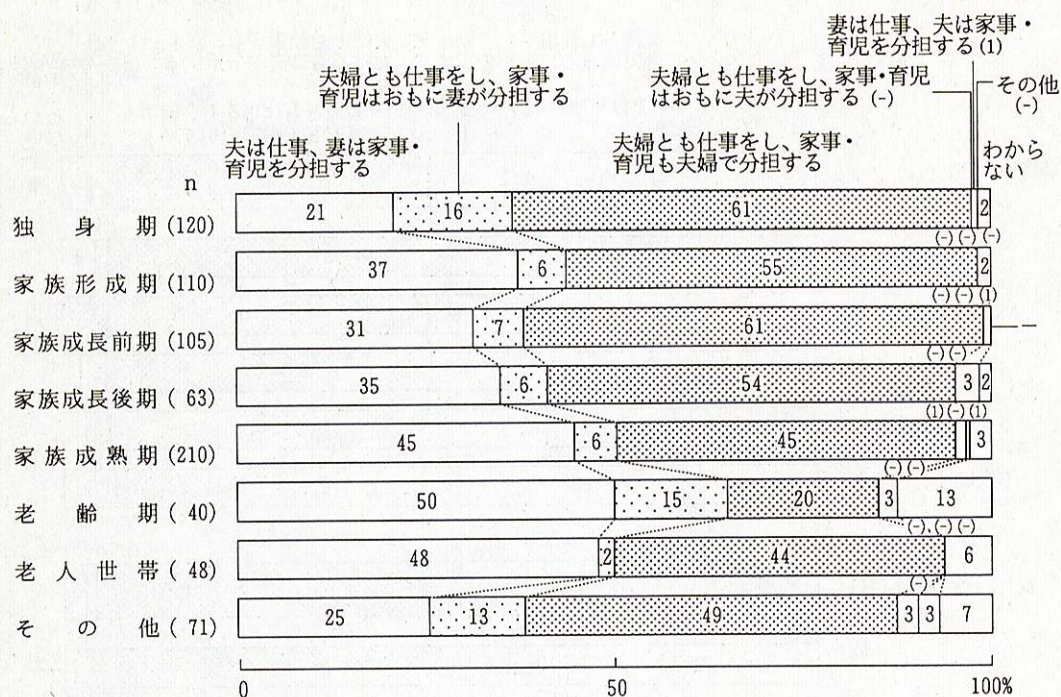
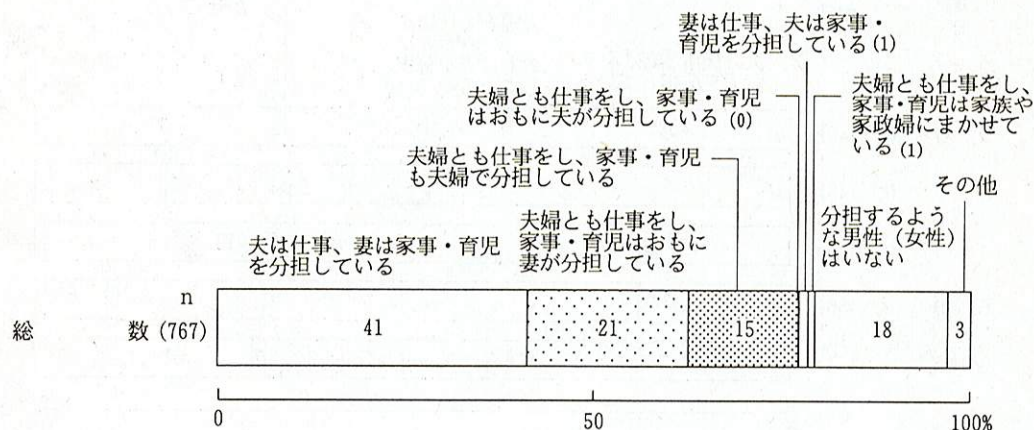


図9-2 夫婦役割分担のあり方（ライフステージ別）



## 9-2 家庭内での夫婦の役割分担

問19 [回答票] それでは、あなたのご家庭では、夫婦の役割分担はどのようになっていますか。  
この中から近いものを1つだけ選んでください。(○は1つ)



家庭内での実際の夫婦の役割分担についてたずねたところ、「夫は仕事、妻は家事・育児を分担している」という人が41%、「夫婦とも仕事をし、家事・育児はおもに妻が分担している」が21%、「夫婦とも仕事をし、家事・育児も夫婦で分担している」という人が15%、「夫婦とも仕事をし、家事・育児はおもに夫が分担している」が0%、「妻は仕事、夫は家事・育児を分担している」が1%、「夫婦とも仕事をし、家事・育児は家族や家政婦にまかせている」が1%となっている。

年齢別にみると、「夫は仕事、妻は家事・育児を分担している」は30代(48%)と60歳以上(51%)で他の年齢層に比べ高くなっている。また、50代では、「夫は仕事、妻は家事・育児を分担している」という人(34%)よりも、「夫婦とも仕事をし、家事・育児はおもに妻が分担している」という人の方が多い。

ライフステージ別にみると、「夫は仕事、妻は家事・育児を分担している」と答えた人が、家族形成期では62%と、他の年齢層に比べ高くなっている。「夫婦とも仕事をし、家事・育児はおもに妻が分担している」という人は、家族成長後期で32%と、最も高くなっている。

図9-3 家庭内での夫婦の役割分担（年齢別）

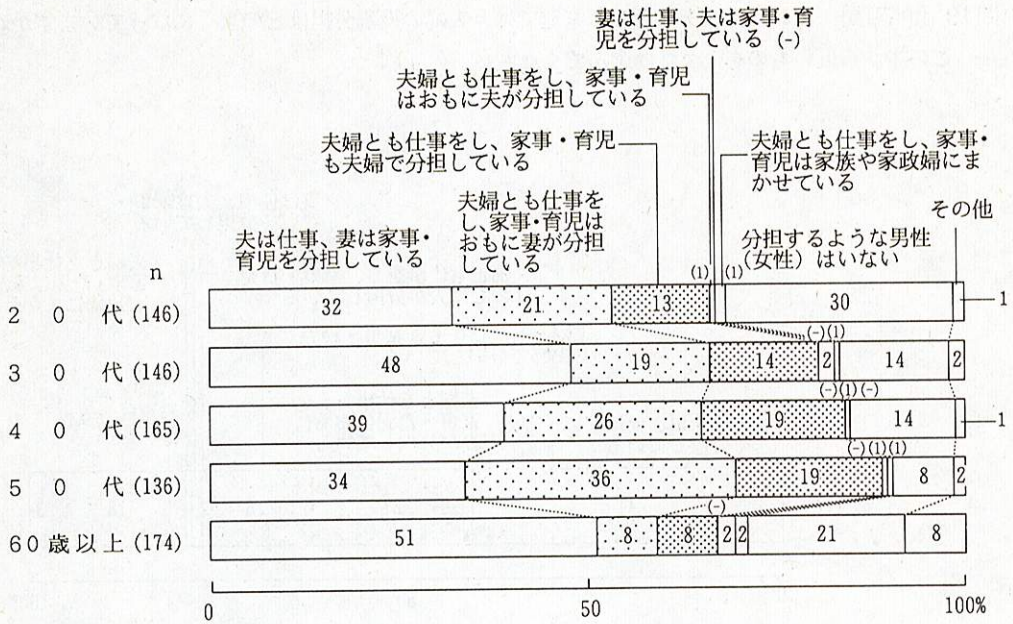
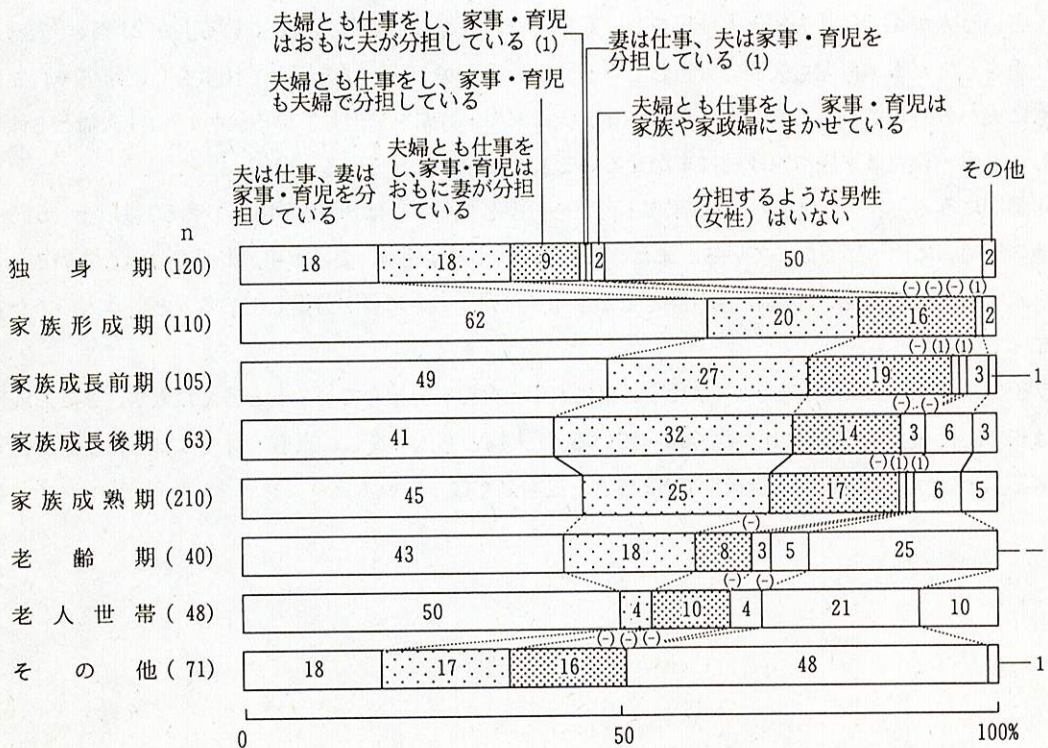
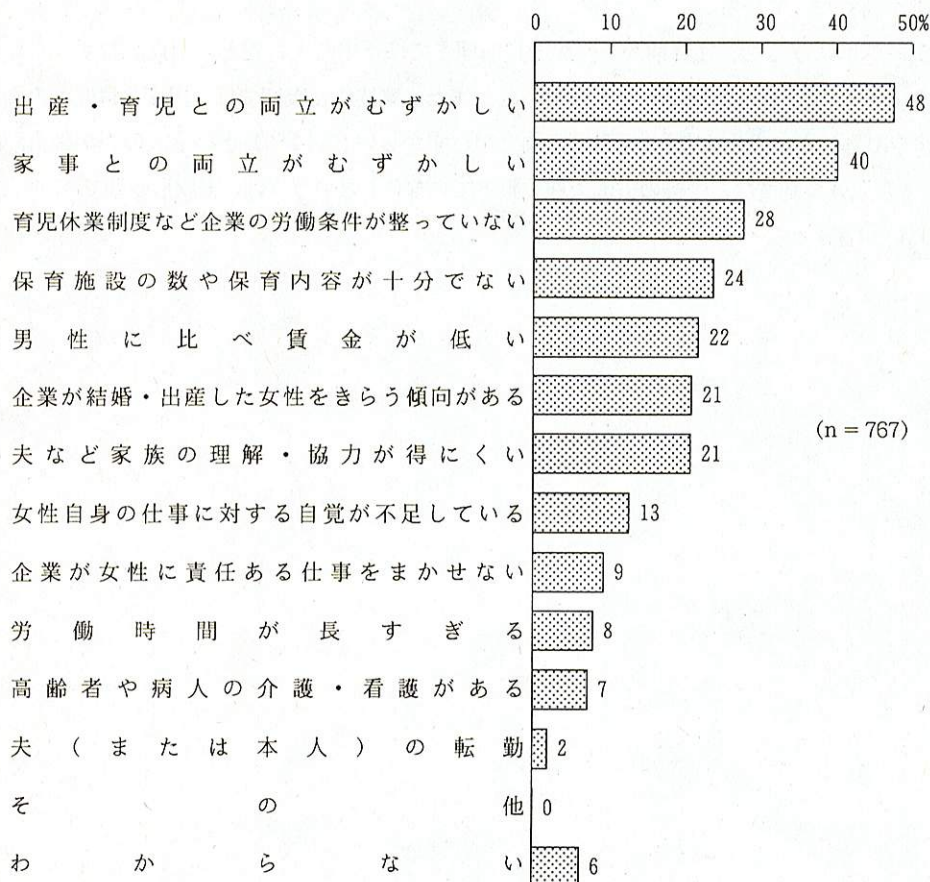


図9-4 家庭内での夫婦の役割分担（ライフステージ別）



### 9-3 女性が働く上での障害

問20 [回答票] 女性が仕事をしたり続けていく上で大きな障害となっていることは、どのような事柄だと思いますか。この中から特に大きな障害と思われるものを3つまであげてください。(〇は3つまで)



女性が仕事をしたり続けていく上で障害になることとして、「出産・育児との両立がむずかしい」(48%)が最も多く、次いで「家事との両立がむずかしい」を40%があげており、以下、「育児休業制度など企業の労働条件が整っていない」(28%)、「保育施設の数や保育内容が十分でない」(24%)、「男性に比べ賃金が高い」(22%)、「企業が結婚・出産した女性をきらい傾向がある」(21%)、「夫など家族の理解・協力が得にくい」(21%)などとなっている。

性別にみると、男女とも「出産・育児との両立がむずかしい」の回答率が最も高くなっている。「家事との両立がむずかしい」という人は、女性では35%なのに対して、男性は47%と12ポイントと高くなっている。また、「保育施設の数や保育内容が十分でない」(男性19%、女性28%)と「男性に比べ賃

金が低い」(男性17%、女性26%)では、それぞれ男性に比べ女性の方が回答率が高くなっている。

性・年齢別にみると、「出産・育児との両立がむずかしい」は男性の30代(64%)と女性の20代(60%)で6割を超えている。「家事との両立がむずかしい」という人は男性の20代で60%と最も高い回答率となっている。「育児休業制度など企業の労働条件が整っていない」は女性の20代(41%)と30代(40%)、「保育施設の数や保育内容が十分でない」も女性の20代(40%)と30代(39%)で、他の年齢層に比べ回答率が高くなっている。

ライフステージ別にみると、独身期から家族成長前期までは「出産・育児との両立がむずかしい」が過半数を超えており、独身期では63%となっている。また、家族成長後期では「出産・育児との両立がむずかしい」(40%)という人より、「家事との両立がむずかしい」(44%)という人の方が割合が高くなっている。「育児休業制度など企業の労働条件が整っていない」という人は、家族形成期で47%と、他の層に比べ高い回答率となっている。

図9-5 女性が働く上での障害（性・年齢別）

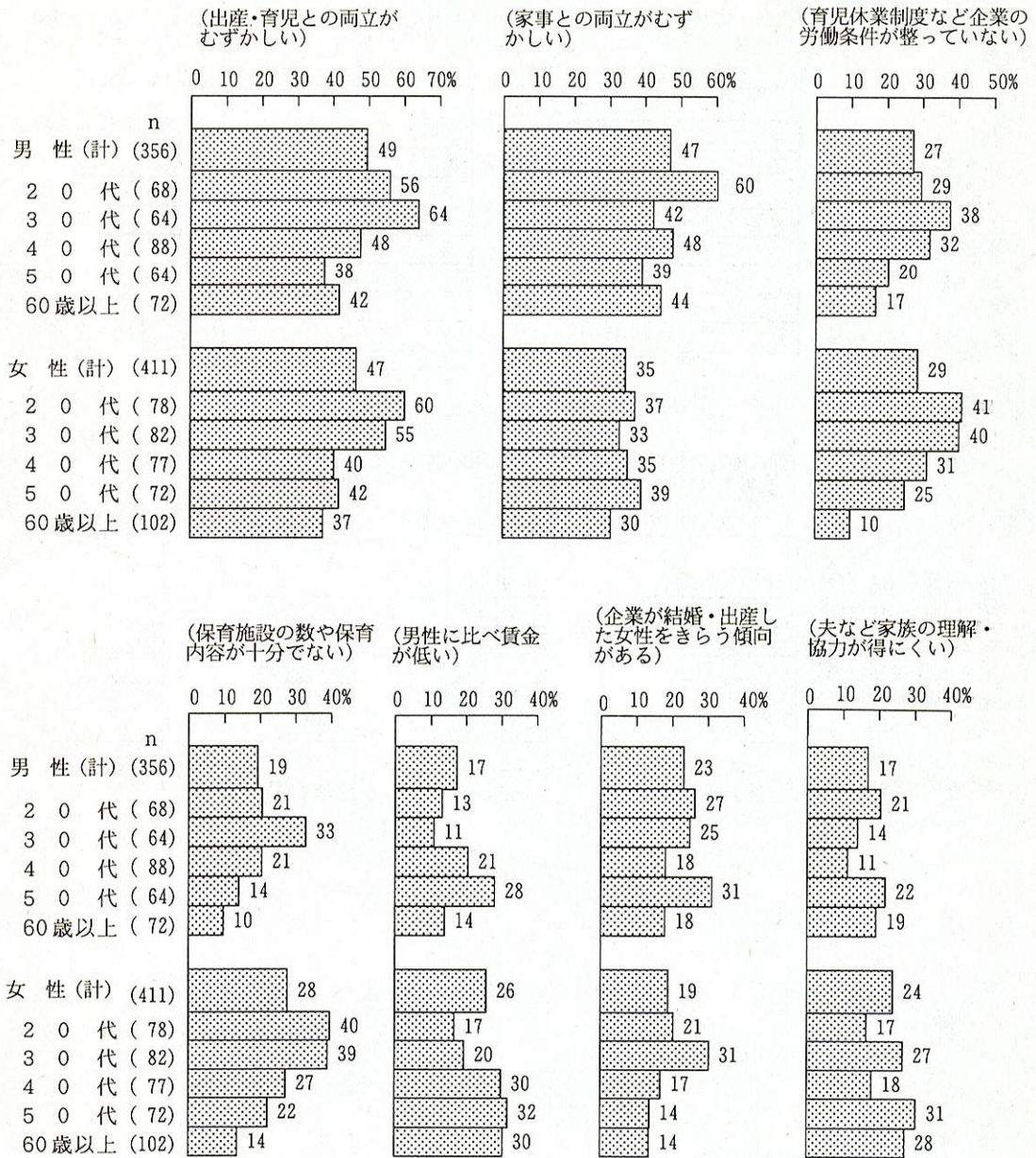
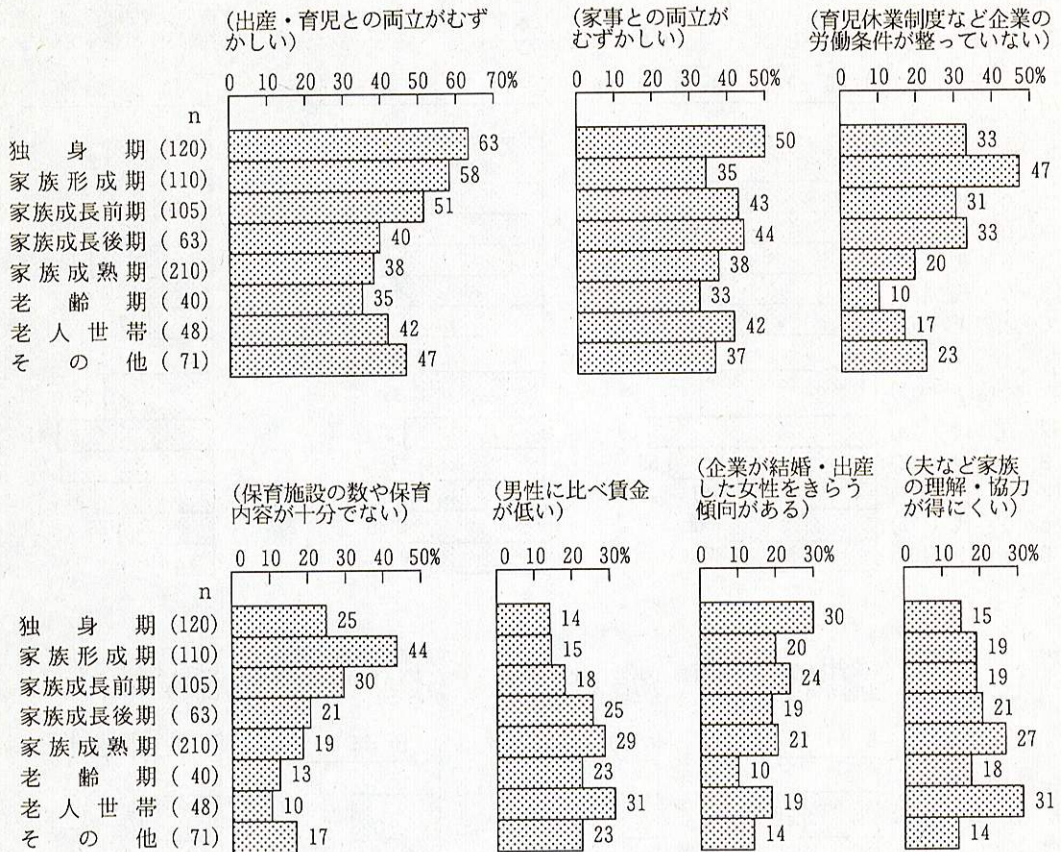
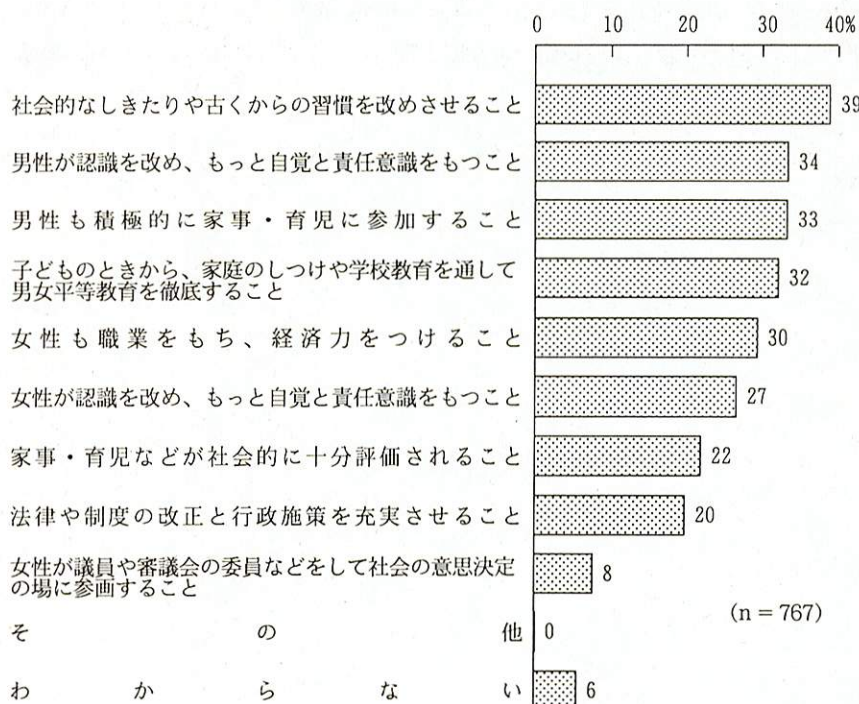


図9-6 女性が働く上での障害（ライフステージ別）



#### 9-4 男女平等社会の実現に重要だと思うこと

問21 [回答票] 男女平等社会を実現するためには、どんなことが重要だと思いますか。あなたの気持ちに近いものをこの中から3つまであげてください。(○は3つまで)



男女平等社会の実現に、どんなことが重要だと思うかたずねたところ、「社会的なしきたりや古くからの習慣を改めさせること」が39%と最も多くなっている。次いで、「男性が認識を改め、もっと自覚と責任意識をもつこと」(34%)、「男性も積極的に家事・育児に参加すること」(33%)、「男女平等教育を徹底すること」(32%)、「女性も職業をもち、経済力をつけること」(30%)を3割以上の人があげており、以下、「女性が認識を改め、もっと自覚と責任意識をもつこと」(27%)、「家事・育児などが社会的に十分評価されること」(22%)、「法律や制度の改正と行政施策を充実させる」(20%)などとなっている。

性別にみると、「社会的なしきたりや古くからの習慣を改めさせること」(男性43%、女性35%)は8ポイント、「男性が認識を改め、もっと自覚と責任意識をもつこと」(男性37%、女性31%)は6ポイント、男性の方が女性より高くなっている。逆に、「男性も積極的に家事・育児に参加すること」(男性31%、女性36%)と、「女性も職業をもち、経済力をつけること」(男性27%、女性32%)はそれぞれ5ポイント男性より女性の方が高くなっている。

性・年齢別にみると、「社会的なしきたりや古くからの習慣を改めさせること」は20代の男性で53%と最も高くなっている。「男性が認識を改め、もっと自覚と責任意識をもつこと」という人は男性の20代(46%)と60歳以上(42%)で4割を超えている。「男性も積極的に家事・育児に参加すること」という人は、20代の男性(41%)と40代の女性(40%)で4割以上となっている。

ライフステージ別にみると、「男性が認識を改め、もっと自覚と責任意識をもつこと」という人は、独身期で41%と最も高くなっている。また、「女性も職業をもち、経済力をつけること」と答えた人は、家族成長後期以降で3割を超えており、独身期から家族成長前期にかけてに比べ高くなっている。

図9-7 男女平等社会の実現に重要だと思うこと（性・年齢別）

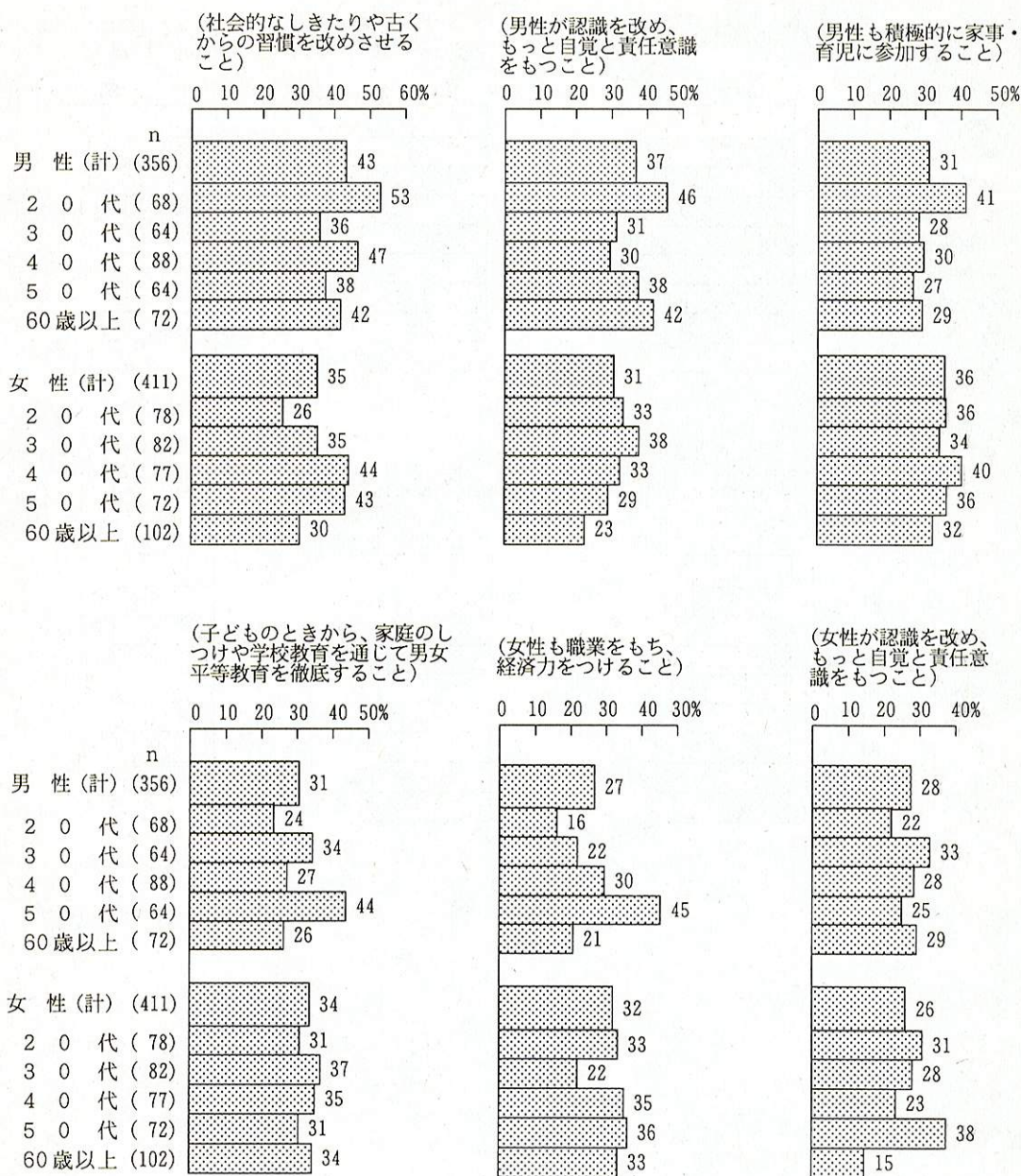


図9-8 男女平等社会の実現に重要だと思うこと（ライフステージ別）

